

ぶ霊水と共に(増刊号)

発行 法華寺
No.20
2023.1
河南町加納 247
☎0721933023

まいてら法華寺

検索

寄り添いの寺 法華寺

検索

三十番神とは

日本には、八百万(やおよろず)の神々がおられます。その日本の神々の中でも、代表格である三十柱の神様を、一ヶ月三十日を毎日ご当番に当て、信仰する者を守護するように選ばれたのが三十番神様です。その歴史は、平安時代に法華経を布教された最澄(伝教大師)が比叡山にお祀りされたのが日本で最初と伝えられています。以後は室町時代から江戸時代まで『神仏習合』の形を取り、全国各地では、お寺と神社が同じ敷地に存在していることも数多く見られました。

鎌倉時代、日蓮聖人が若かりし頃、比叡山で修行中、神々が日替わりで出現して、日蓮聖人が読む法華経を聞きに来られたとのお話が残っています。そのことから、日蓮宗・法華宗では、「法華守護の三十番神」として、広く信仰されるようになりました。



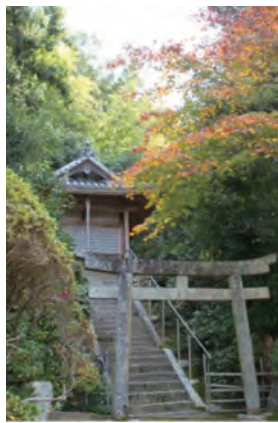
毎日、日替わりで我々を護ってくださる三十柱の神様です。

明治維新直後には、アマテラス大神、つまり天照皇太神を祖先とする天皇崇拜の思想が急進し、神様と仏様を分けて『廃仏毀釈・はいぶつきしやく』と言って、お寺や仏像を破壊する風潮が数年続きました。その際に、神仏習合の象徴である三十番神様のご尊像は、多くの寺院で破棄されることが多かったのです。

法華寺の三十番神

當山には、番神堂と、その前には鳥居があり、室町時代からの信仰が伝わっています。堂内には、三十番神様や鬼子母神様など、江戸時代からのご尊像が現存しています。他の寺院で多く見られたような明治維新の廃仏毀釈に会わず、そのままの形で残っている大変貴重な信仰の形です。法華寺行事としては、毎年九月八日・九日に、番神祭を営なみ「五穀豊穰」「疫病退散」を祈願しております。

また、昔から、北加納地区では、子供達は、お宮参りや七五三を、法華寺の番神堂で祈禱を受けてきましたが、昨今では、ネットの記事などをご覧になって、地区以外の方もお越しになられています。



三十番神信仰の復興を願って

「我々が、日代わりで法華経信者を護る」と頼もしく存在しておられる三十番神様ですが、明治期の廃仏毀釈により、室町く江戸時代の頃のような、信仰は少なくなっています。しかし、社会不安が強く、個々のよりどころが求められる中、神仏を信じ祈ることは大切だと感じています。當寺は「三十番神信仰の復興」を進めたいと考えております。



番神堂内部。中央の扉内で三十番神様をお祀りしています。右は鬼子母神様